

和歌山大学岸和田サテライト事業報告 2019

(平成 31・令和元年度)



はじめに

和歌山大学は、大阪府岸和田市との地域連携推進協定にもとづき、2006年4月、岸和田市立浪切ホールに岸和田サテライトを開設しました。岸和田サテライトでは、和歌山大学の学部開放授業(教養科目)・大学院経済学研究科授業および専門研究・公開講座等を開講・実施し、地域のみなさんに高等教育・生涯学習の機会を提供しているほか、地域課題の解決に向けた各種の研究や連携事業を展開しています。

2019年度は、本学と岸和田市との連携の指針となる「和歌山大学・岸和田市地域連携戦略ビジョン2014-2023、同アクションプラン」に沿って、戦略的・計画的な事業運営に取り組みました。このビジョンおよびプランは、本学と岸和田市との連携の目的である4つの「目指す姿」を軸に、それらを実現するための各種事業および組織運営の充実に図るために策定したものです。

岸和田サテライトの各種事業は、自主事業としての活動と、本学の各部局が岸和田市を中心とした大阪府南部(泉州地域)で事業を実施する際の調整・協力等の諸活動からなっています。

本事業報告においては、前者の事業活動に重点をおきつつ、地域における本学の教育研究および連携活動等の概要を、上記の4つの「目指す姿」に沿って報告しています。

今後ともサテライト事業にご支援・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

2020年4月

和歌山大学岸和田サテライト代表 藤田和史(経済学部准教授)

和歌山大学岸和田サテライト事業報告2019

I 高等教育機能を発揮している

1. 高等教育事業

【1-1】大学授業の開講

和歌山大学岸和田サテライトでは、本学が有する高等教育機能を活用して、社会人の学び直し・地域課題の探求やスキルアップなど、大人の学習ニーズに即した学部開放授業（教養科目）と大学院授業（経済学研究科）を開講しました。

2019年度は、学部開放授業4科目と大学院授業7科目を開講し、受講・履修者はのべ157名でした。授業は、土曜日と平日夜間に浪切ホールで開講しています。

【1-1-1】高度職業人養成型授業の開講

【1-1-2】地域課題探求型授業

【1-1-3】文化・教養型授業の開講

<大学院経済学研究科授業>

| 科目名 | 学期 | 担当教員 | 受講者数 | | |
|-------------|----|-------------------------|-----------|--------|-------|
| | | | 院生 | 科目等履修生 | 合計 |
| 持続可能な現代社会 | 前期 | 阿部 秀二郎、岡田 真理子 金川 めぐみ | 7 | 1 | 8 |
| 産業経済地理学特殊問題 | | 藤田 和史 | * | * | (未開講) |
| 英米の税制 | | 片山 直子 | 5 | 1 | 6 |
| 法人税特殊問題 | | 片山 直子 | 3 | 0 | 3 |
| 財務会計論特殊問題 | 後期 | 山田 恵一 | 3 | 3 | 6 |
| 租税法実務特殊問題 | | 近畿税理士会 | 1 | 4 | 5 |
| アメリカ政治経済 | | 藤木 剛康 | (1) 辞退 | 1 | 1 |
| 合計 | | | 19 | 10 | 29 |

【受講資格】

大学を卒業した者又は、学校教育法施行規則第 155 条の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

※資料 3-2 【2019 年度大学院授業 授業評価】参照

< 学部開放授業 >

| 科目名 | 学期 | 担当教員 | 受講者数 | | | |
|----------------------------|----|---|------|------------------------|-----|-----|
| | | | 学部生 | 他学生 | 社会人 | 合計 |
| 地域と スモールビジネス | 前期 | 木下 和紗 | 2 | * | 14 | 16 |
| 文化資源と地域再生 (アゴラセミナー I B) | | 西田 正宏、田中 宗博、 前川 真(大阪府立大学) 菊川 恵三、大橋 直義 | 12 | 単位互換生 2 | 12 | 26 |
| 空と宙の科学 | 後期 | 尾久土 正己 中串 孝志 | 30 | 高校生 1 単位互換生 4 | 16 | 51 |
| 地域ブランド論 | | 藤田 和史 戴 容秦思 | 4 | * | 11 | 15 |
| 合計 | | | 48 | 7 | 53 | 108 |

【受講資格】

18歳以上（高校生を除く）。

但し、和歌山県と和歌山大学の地域連携包括において、県教委が認めた場合は県立高校生の受講が可能。

※資料3-3【学部開放授業 授業評価】参照

【1-1-1】大学授業の開講

大阪府消費生活センター委託事業

「大学生期における消費者教育推進事業」の開催

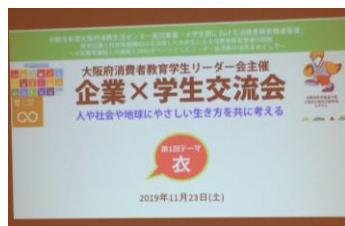
和歌山大学「消費者市民と社会」授業計画ユニットⅡと大阪府消費者教育学生リーダー養成講座との連携で開催しました。

○大阪府消費者教育学生リーダー会主催

第1回 企業×学生交流会

2019年11月23日（土） 13:30～16:30

- ・消費者学生リーダー会活動報告
- ・消費者を大事にする企業の活動紹介
- ・ワークショップ・交流会



参加学生：10名 参加企業：14名
 和歌山大学の卒業生の参加もあり、参加企業とのワークショップでのさまざまな意見を学生が、発表し参加者で共有しました。

【1-2】学習環境の充実

【1-2-1】学習環境の充実

- ①岸和田サテライトオフィス前交流ラウンジの活用
 高校生の自習スペースとして活用されました。
- ②和歌山大学、岸和田サテライト、地域の掲示板として活用
 常に新しい情報発信に努めました。



7月



8月



9月



10月



11月



12月



1月



2月



3月



地域の掲示板



浪切ホールエントランス



浪切ホール エントランス

- ・和歌山大学オープンキャンパスや、募集要項、教員免許状更新研修募集要項等を配架し和歌山大学の附属施設として地域に情報を発信しました。

目指す姿Ⅱ：市民の生涯学習活動をサポートしている

2 生涯学習機会の提供

【2-1】「わだいな浪切サロン」の充実

多事業との接続、連携などを考慮しテーマを選定しました。

また、南大阪地域等の大学との連携で多様なテーマ設定しました。

【2-1-1】継続実施と新たな展開

浪切サロンの継続実施と新たな展開を模索するため、テーマの検討をするにあたり、既存データの分析を行い、参加者ニーズ調査を行いました。

【アンケートの質的分析】

2016年度～2018年度参加者アンケートから、リクエスト分野の分析を行いました。

i) 浪切サロンの開催状況の分析

開催月やテーマから、今年度のテーマや内容を検討し企画しました。

A. 参加者数の推移と講師の所属

- ・量的調査
 - ・2016～2018
 - ・既存データ 2008～2016

2008～2018年度

| | 経済 | 観光 | 教育 | システム | その他 | CD | 他大学・外部 | 合計 |
|--------|-----|-----|-------|------|-----|----|--------|-------|
| 登壇回数 | 20 | 16 | 27 | 18 | 18 | 2 | 11 | 112 |
| 参加者数 | 797 | 662 | 1,325 | 820 | 804 | 48 | 500 | 4,956 |
| 平均参加者数 | 40 | 41 | 49 | 46 | 45 | 24 | 45 | 44 |

B. 希望するジャンルのキーワード出現回数

- ・質的調査
 - ・ジャンル 81回～110回 (922名分)
 - ・キーワード 81回～110回 (922名分)

【ジャンル】

| リクエスト数 | 歴史 | 文化・観光 | 自然・環境 | 科学・技術 | 政治・経済 | 教育・支援 | 医療・福祉 | その他 | GW・討論 |
|----------|-------|-------|------------------|-------|-------------|--|------------------------|----------------------|-------|
| 81回～110回 | 15 | 20 | 31 | 40 | 26 | 28 | 31 | 89 | 7 |
| キーワード出現数 | 歴史 15 | | 自然科学 地域・自治・防災 | | 法律・憲法 経済 | 子ども・子育て 教育 支援 介護 高齢者 障害 | 10 9 6 2 2 | 地域活性化 雇用・労働 音楽 | |
| | | | | | | 心理・療法 食・健康 | 4 8 | | |

科学技術が最も多く、自然や環境、教育や医療・福祉などの関心が高かった。

これらのデータ結果から、地域の課題やニーズを把握し、「地域課題解決シリーズ」、「グループワーク型」、「参加者体験型」など、新たな展開を企画し、試験的に導入しました。また、岸和田市内外の機関との連携や、協働を図りました。

【わだいな浪切サロンの新たな取り組み】

- ①地域課題解決プログラムとして「地域で支える高齢期の生活」を同一テーマをとして、3回シリーズで地域課題を多方面から分析するセミナーの代替としました。
- ②岸和田市介護保険課、障害者支援課と連携し、公開講座の相乗効果を図りました。
- ③南大阪地域や大学コンソーシアム加盟大学から講師を招き、話題を提供しました。
- ④大阪府立大学との連携事業として、講師を招きパラリンピックの正式競技の紹介講義と参加者体験型をとりました。
- ⑤祭礼により参加者数の減少が見込まれる月には、課題とターゲットを明確にし、事前申込制をとりグループワークを行いました。

【2019年度実施状況】

| 回 | 月 | 講師 | 所属 (所属は当時) | 内 容 | 参加者 居住地 | | |
|-----|----|-------|-----------------|---|---------|----|----|
| | | | | | 市内 | 市外 | 合計 |
| 111 | 4 | 児嶋啓輔 | 和歌山信愛女子短期大学 | 世界遺産「熊野」へと続く泉州の街道 | 13 | 30 | 43 |
| 112 | 5 | 菊川恵三 | 和歌山大学 | 新元号「令和」と万葉集～大伴旅人をめぐって～ | 25 | 47 | 72 |
| 113 | 6 | 今岡真和 | 大阪河崎リハビリテーション大学 | 【地域で支える高齢期の生活①】 地域資源を活用して行なう 認知症予防活動の成果と現状 | 46 | 42 | 88 |
| 114 | 7 | 藤田和史 | 和歌山大学 | スモールに地元で生きる | 19 | 21 | 40 |
| 115 | 9 | 岩谷 潤 | 和歌山大学 | 思春期をどうみる？どう接する？ ～精神科医として患者と出会う経験から～ | 22 | 15 | 47 |
| 116 | 10 | 秋山演亮 | 和歌山大学 | ホントは凄い「通信技術」 ～はやぶさ2からIoTまで～ | 33 | 20 | 53 |
| 117 | 11 | 村田順子 | 和歌山大学 | 【地域で支える高齢期の生活②】 高齢期の地域生活を考える ドイツの「多世代の家」から | 29 | 22 | 51 |
| 118 | 12 | 金川めぐみ | 和歌山大学 | 【地域で支える高齢期の生活③】 これからの地域福祉のあり方を考える ～真の地域共生社会の実現のために できることは何か～ | 19 | 16 | 35 |

| | | | | | | | |
|-----|---|------|--------|---------------------------------------|-----------------------|----|----|
| 119 | 1 | 奥田邦春 | 大阪府立大学 | 百聞は一投にしかず ～パラスポーツ・ボッチャ～ | 16 | 14 | 30 |
| 120 | 3 | 足立基浩 | 和歌山大学 | 「令和時代のまちづくり戦略」 ～5年で空き店舗がゼロになった商店街～ | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期 | | |

年間参加者合計 459名

※資料3-4【2019年度 わだい浪切サロン 参加者動向資料】参照

【2-2】セミナー等の開催

【2-2-1】セミナー等の開催

地域、行政等のニーズに応じて、市民の生涯学習に資するセミナーを開催しました。

■「岸和田の空を知ろう」&「和大的話題」

12月22日（日）岸和田市立図書館 参加者15名

- ・岸和田市立図書館と貝塚市立善兵衛ランド並びに岸和田サテライトとの協働企画
- ・貝塚市教育委員会の協力を得て、貝塚市立善兵衛ランドから講師を招きセミナーを実施しました。岸和田市内外からの参加がありました。



目指す姿Ⅲ：地域課題の解決と大学の知的資源と住民の交流をサポートしている

【3-1】 地域研究事業

【3-1-1】 地域課題の解決に向き合う事業の実施

(1) オープンデータ活用プログラム

地域課題に向き合い、市民と大学、行政が連携する取組として市都市計画課が実施している「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」と連携し、「岸和田の景観を楽しもう～景観とオープンデータ～」を企画しました。

岸和田サテライト友の会のメンバーを中心に、「国際的・オープンデータ・デイ2020」(IODD)の参加に向け準備を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期しましたが、事前申し込みが多数あり、次年度に延期し開催予定です。



(2) 主権者教育プログラム

これまでの課題を整理し新たな展開を岸和田高校の文理課題研究家庭科ゼミと連携し、新たな展開を目指して、一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会（kcp）、南海・TVK株式会社の協力を得て、主権者教育プログラムを企画しました。

「主権者教育」を広義に捉え、市民を巻きこんだ形を企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期としました。

①市民との交流の場「岸和田市を考える会」の立ち上げ

一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会（kcp）との連携で、岸和田市内の高校生の課題研究を支援する会を立ち上げ、高校生を囲み地域課題解決に取り組むべく意見交換を行いました。

■第1回 「岸和田を考える」カフェ （11月9日）

【参加メンバー】9名

岸和田高校2年生3名・一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会（kcp）1名・府立高校非常勤講師1名・岸和田市企画課2名・岸和田サテライトスタッフ2名



②和歌山大学岸和田サテライトの支援

「主権者教育」、「消費者教育」にも繋がる取組として、教育支援アドバイザーを招き、研究への指導を行いました。

■第2回 「岸和田を考える」カフェ （12月28日）

【参加メンバー】15名

岸和田高校2年生4名・一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会（kcp）3名・府立高校非常勤講師1名・岸和田市企画課3名・岸和田サテライトスタッフ3名・岸和田サテライト研究支援アドバイザー1名



③多方面との連携の実施

一般社団法人岸和田シティプロモーション推進協議会（kcp）と南海TVK株式会社を共催とし、岸和田高校協力の下、南海浪切ホールで「高校生の声から考えるまちづくり」として一般を対象に、主権者教育プログラムとして開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期としました。

■第3回 「岸和田を考える」ワーキンググループ会議（2月13日）

【参加メンバー】

岸和田シティプロモーション推進協議会1名・南海・TVK1名・岸和田市企画課2名・岸和田サテライトスタッフ2名



ワーキンググループ会議
2月13日

目指す姿Ⅲ：地域課題の解決・大学の知的資源と住民の知的交流をサポートしている

4 各種連携

【4-1】各種連携

【4-1-1】学校教育分野の連携促進

高大連携として、岸和田高等学校の文理課題研究家庭科ゼミと連携し、主権者教育プログラムを企画しました。

【4-1-2】生涯学習分野・まちづくり分野・産学連携分野

生涯学習分野については、協働推進チームでの情報交換を図り、協働で生涯学習事業を実施しました。また、貝塚市教育委員会や大阪府立大学との連携で、生涯学習事業を実施しました。

■岸和田市立図書館との連携事業

岸和田サテライトでの開講科目に関連した参考文献・資料、和歌山大学の生涯学習事業関連資料の企画展示を実施しました。



■貝塚市教育委員会との連携

学部開放授業の開講科目に関連した事業を市立図書館と協働し、小学生とその保護者、一般を対象とした「岸和田の空を知ろう！」としてセミナーを開催しました。

貝塚市教育委員会へ協力要請をし、貝塚市立善兵衛ランドから講師を招きました。

また、和歌山大学観光学部や浪切サロンでの天文関係のイベント案内を行いました。



■大阪府立大学との連携

大阪府立大学の公開講座と、わだい浪切サロンを担当者同士で情報共有し見学しました。また双方の公開講座への講師の派遣を予定しました。

■大阪府立大学、大阪府立久米田高等学校との協働

夏休み遊びの広場～市民活動ステーション コラボラ拡大版～ に協働参加しました。

子どもの宿題コーナーを、大阪府立大学生と久米田高等学校の生徒と担当しました。



【4-1-3】連携ひろば「ワダイ×キシワダ」の運営

岸和田市の繊維産業の活性化の一助として、地域産業と連携し学生の地域調査と事業を実施しました。

■地域産業との連携

岸和田市の第一次産業の桃の栽培と、第二次産業の繊維産業を繋ぐ企画を検討するため、3月桃の花の満開の時期に、包近において現地調査を行いました。

桃の摘花し、それを岸和の木綿糸に染色する工程の説明を受けました。



■岸和田市図書館との協働事業の実施

連携ひろば「ワダイ×キシワダ」新たな展開の着手として、岸和田の繊維産業の活性化を図るために、岸和田市図書館のブックフェスタに参画、協力を得て「繊維の魅力にせまる」を春と秋に2回実施しました。

地域の繊維産業関係者等と協働し「2019 ブックフェスタ」で市民参加型の体験企画と、学生の成果発表を行いました。

■まちライブラリー ブックフェスタ 2019in 関西 への参画

(春) 「繊維の魅力にせまる～綿花を植えてみよう～」

- ・5月11日(土) 岸和田市立図書館にて開催
- ・参加者15名

大阪府立大阪産業経済リサーチセンターの松下隆氏からは、大阪の繊維産業の現状・課題と方向性、大阪の繊維業は紡績から染色、衣料の製造まで一貫で行っているのが大阪の特徴であると、綿の話を中心にご説明頂きました。

続いて“夢つむぎ会”事務局長 木村氏から、会の活動の報告がありました。

参加者の方々には“棉”の種まきを行っていただき、図書館職員の協力を得て秋のブックフェスタへと繋げました。

(秋) 「繊維の魅力にせまる Part II ～綿花を収穫してみよう～」

- ・ 10月27日(日) 岸和田市立図書館にて開催
- ・ 参加者 27名

5月の種まきから約5か月、参加者に図書館で育った“コットンボール”の収穫体験をとおして繊維を身近に考え、地域産業や観光に広がるような交流の場を作りました。

大阪産業経済リサーチセンターの主任研究員松下隆氏から、各方面の担当者の「綿」への関わり方の紹介がありました。

「夢つむぎ会」事務局長の木村氏の紹介で2019年3月に岸和田市包近で桃の摘花作業と現地調査を行った、和歌山大学地域交流援農サークル「agrico」の学生から、『今後は地域の産業について学生の知識や知恵を広げ還元していきたい。』との発表がありました。

また、「夢つむぎ会」の木村氏の解説で、綿の種取を行う機械とその綿を使った糸つむぎの体験や、「夢つむぎ会」の会員アトリエ工房 Annju の樋口さんからは、岸和田産の木綿を「包近の桃」の花で染めた生地を使った被服の紹介と、2020年1月にマドカホールで開催される「教育フェア」で岸和田産業高校の生徒が制作した衣装等の作品展示やファッションショーに出展予定であることなどの紹介がありました。

阪南市の阪南コットンワークスの「棉の木の間」からは、活動の紹介がありました。

総括として大阪経済リサーチセンターの松下氏から、『これからは綿花を活かして育てる喜びや学習、それを観光＝ツーリズムにまで広げていくことが、インバウンドを取り込むことで新たな綿花を中心とした産業の広がりを持つのではないかと、評されました。

和歌山大学岸和田サテライト代表の藤田先生は、『こうしたイベントを進めていくことで地域における産業への新たな視点への一助になれば幸いである。』と結びました。

また翌週テレビ岸和田から地域ニュースと情報番組「5じやん」で放送されました。



【春】



【秋】

【4-2】岸和田サテライト友の会への支援

岸和田サテライト友の会の関係を緊密にし、岸和田サテライトの発展と友の会の活動支援を行い、活動の活性化と自立支援を図りました。

各活動に対して企画・運営・支援等を行いました。

■幹事会の運営支援

・活動の企画にあたっては、友の会幹事会を年間8回開き企画・運営し活発な活動を行いました。

■第42回岸和田市民フェスティバルへの参加

- ・開催 5月3日（祝）（岸和田市中央公園）
- ・内容 「忘れない！備えよう大地震！」
- ・体験：災害時に使える「段ボールベッド」の作り方・
防災カルタ作りと遊びの体験
- ・実演：紙芝居「いなむらの火」（協力：岸和田市立図書館）
- ・参加者 約400名



岸和田サテライト友の会と岸和田サテライトが協力して出展している市民フェスティバル。今年も「忘れない！備えよう大地震！」をテーマに、大人には災害時に使える簡易ベッドの展示・実演コーナーを設けました。また、子ども対象に岸和田市立図書館の協力を得て、防災のための紙芝居の読み聞かせを行いました。

防災カルタを作成し、親子でカルタ取りや塗り絵を通して防災意識の共有を行いました。

■総会・夏季講演会の企画・運営

- ・開催 8月3日（土）14時20分～16時30分（浪切ホール多目的ホール）
- ・講演 「祭礼の継承と地域社会の変容～泉州地域を中心として～」
- ・講師 和歌山大学紀州研経済史研究所 特任准教授 吉村旭輝 先生
- ・内容

第1部 基調講演

時代の変容を通じて、祭礼と共同体がどう変化していくのかを、近畿民具学会で発表された内容をもとに、岸和田及び泉州地区が少子高齢化のもとにいかに変化していくのかを講演していただきました。

2部 トークセッション

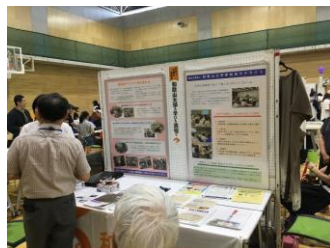
友の会で会員である岸和田祭礼の役員と「トークセッション」を行い、地域の祭礼の継承について課題提起をしました。



■夏休み遊びの広場～市民活動ステーション コラボ拡大版～への参加

- ・開催 8月17日(土) 13:00～16:00 場所 岸和田福祉センター
- ・内容 岸和田サテライト友の会&岸和田サテライトが出展いたしました。

和歌山大学と地域をつなげようと、岸和田サテライトの活動や学部開放授業受講募集の案内を協力してくれました。



■冬季講演会の企画・運営

- ・開催 2月15日(土) 13時～17時

第1部 基調講演「地域防災とまちづくり」

講師 和歌山大学システム工学部 田上裕人 助教

地震や洪水など、私たちの住むまちはたくさんの災害の危険にさらされています。ひとたび災害に見舞われると、家や町が壊され復興を阻む大量のごみが発生します。大地とまちの成り立ちから町の災害と防災について、①日本の土地と成り立ち、②地震と津波、③災害対策についてわかりやすい解説がありました。

第2部 防災カフェ

岸和田サテライト友の会メンバーがファシリテーターとなり、グループワークを実施しました。3班26名で、災害後の対応についてまた平時から備えておくことをテーマに議論しました。

今回は、障がい者の参加があり、健常者の視点では気が付かない点について意見を聞くことができました。災害時には、介助者も含め障がい者対応避難経路・障がい者対応避難所の場所など情報が不足していることがわかりました。またドローンの活用による被災後の屋根におけるブルーシート敷設が可能であることや、オープンデータを活用することで課題解決につなげていけないのではないか。日常的なコミュニティ作りが災害時でも有効ではないかななどの意見があり、今後の防災カフェなどの取り組みの有効性が確認できました。



2019年度の活動を通し、岸和田サテライトで学び習得した知見を活かす活動を支援しています。岸和田市山直地区公民館の2020年度老人大学から、講師の依頼を受けています。

目指す姿Ⅳ：持続可能な連携組織となっている

5 組織体制・財政

【5-1】戦略的な組織体制

【5-1-1】地域連携推進協議会の充実

【5-1-2】大学の連携体制の強化

研究社会連携課の下部として運営し、学内の各部署と連携し、事業を実施しました。

■COC+推進室との連携

大阪府立大学との連携授業として「文化資源と地域再生（アゴラセミナーⅠB）」を開催しました。

■広報室との連携

大阪府立大学との連携で、浪切サロンに講師を派遣いただきました。

■学生支援課、保健センターとの連携

浪切サロンに、保健センターから医師と看護師に講演いただきました。

【5-2】事務局機能の充実

【5-2-1】事務局機能の充実

地域連携コーディネーターは、各種研修会に積極的に参加しスキルアップと地域課題や情報収集に努めました。

①地域の学習会・研修会への参加

- 2019年9月9日（月）13：00～15：00

「岸和田つ子を地域で育む居場所づくりプロジェクト実践者研修」
～ 多世代でつくる、子どもを真ん中にした地域の居場所
若者がイキイキ活動できる現場をつくろう～

主催：岸和田市社会福祉協議会

- 2019年10月18日（金）10：00～12：00

「もう「話す」だけじゃない「聴く」も立派なコミュニケーション力」

主催：岸和田市立中央公民館

- 2019年10月19日（土）10：30～17：00

「繋がりに始まる防災力向上のヒント」

主催：泉州オフサイト EGG 勉強会

- 2019年11月2日（土）13：30～16：00

『語るデイ KISHIWADA Vol.1～高校生と語ろう！！～』

主催：岸和田シティプロモーション

-
- 2019年11月29日（金）13時10分～14時40分
「精神障がいを理解する～精神疾患を持つ当事者と支援者を迎えて」
「障がい学生支援概論」の受講

- 2019年12月25日（水）13時30分～16時30分
令和元年度 岸和田市教育フォーラム
子どもの心に響く 励ましの言葉かけ
岸和田に「勇気・元気・やる気」を巻き起こそう！
主催：岸和田市教育委員会 学校教育課

- 2019年1月19日（日）14：00～16：00
「子どもが安心して育つためにおとなができること」
主催：特定非営利法人 CAP いずみー暴力防止・人権ネット

- 2020年2月2日（日）13：30～16：30
公開学習会：貝塚『月刊社会教育を読む会』
「公民館はだれもの」
～公民館を含めた社会教育施設のありかたを考える～

②地域課題や地域のニーズ調査

市内の生涯学習施設の活動状況報告の調査データの提供を受け、岸和田サテライトの取組、事業の説明をし、ニーズ調査を行いました。

■社会調査の実施

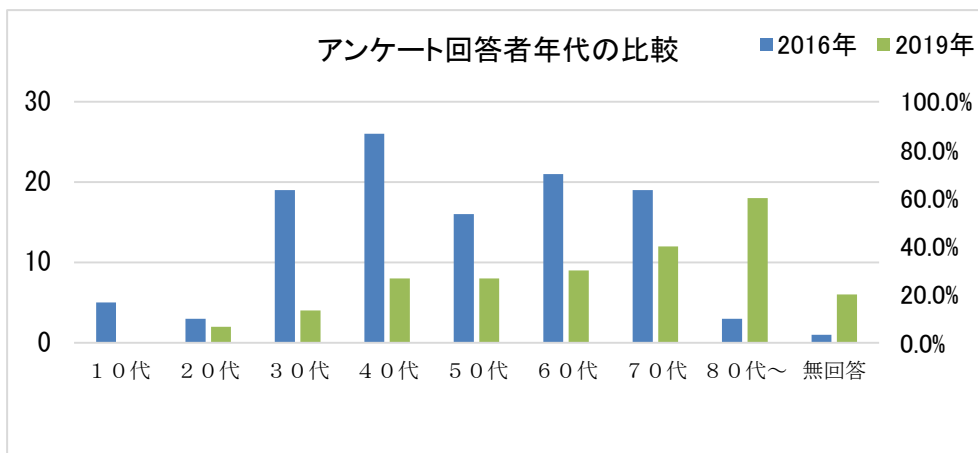
岸和田サテライトで実施してきた既存のアンケート調査と今年度新たに実施したアンケート調査をデータ分析し、浪切サロンのテーマ選択や学部開放授業の授業編成など、地域の課題とニーズのマッチングを行いました。

i) 岸和田市民フェスティバルのアンケートの分析

・岸和田市中央公園で開催される「市民フェスティバル」に岸和田サテライト友の会と岸和田サテライトは毎年度出展しています。

そのブースへの訪問者等を対象に行ったアンケート調査から、岸和田サテライトの事業との相関を分析しました。

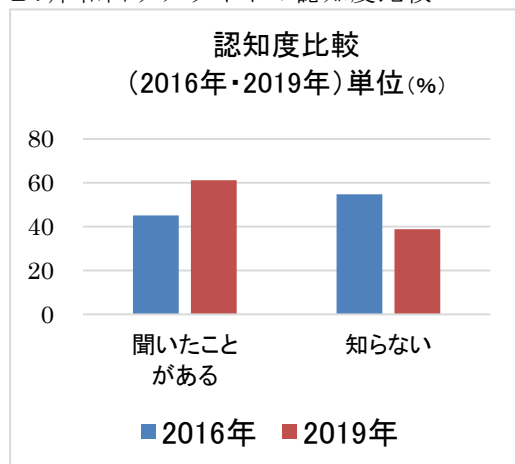
A. 友の会・岸和田サテライトブースへの参加者年代層



| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代～ | 無回答 | N= |
|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|
| 2016年 | 5 | 3 | 19 | 26 | 16 | 21 | 19 | 3 | 1 | 113 |
| 割合 | 4.4% | 2.7% | 16.8% | 23.0% | 14.2% | 18.6% | 16.8% | 2.7% | 0.9% | 100.0% |
| 2019年 | 0 | 2 | 4 | 8 | 8 | 9 | 12 | 18 | 6 | 67 |
| 割合 | 0.0% | 3.0% | 6.0% | 11.9% | 11.9% | 13.4% | 17.9% | 26.9% | 9.0% | 100.0% |

2016年度より、高齢者が岸和田サテライトブースに関心を示している。
生涯学習者層と合致する。

B. 岸和田サテライトの認知度比較



岸和田サテライトの認知度は2016年度より高まっていることがわかる。

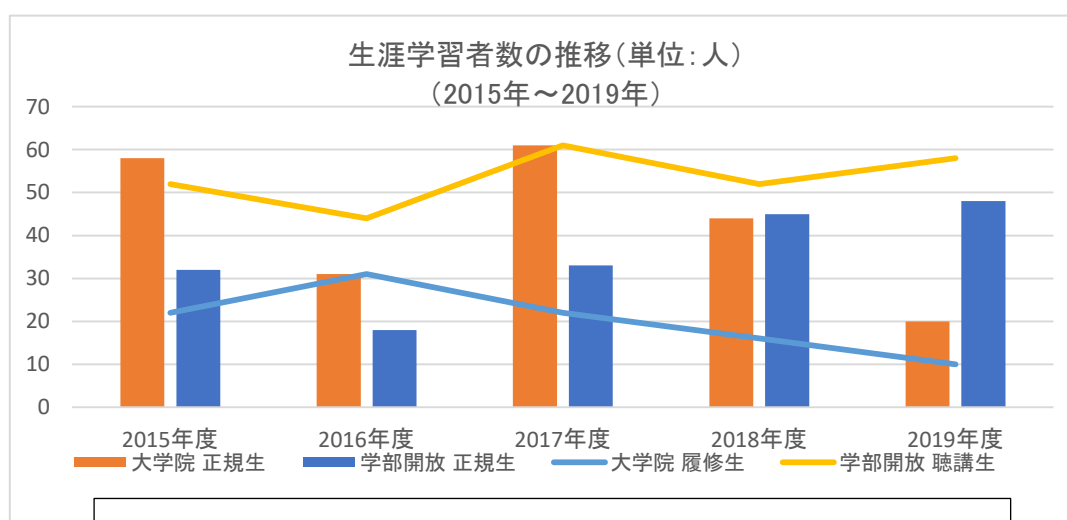
ii) 学部開放授業・大学院研究科の開講状況の分析

- ・量的調査
 - ・2006年度～2019年度 受講者数の推移
- ・質的調査
 - ・開講科目・受講者数・授業アンケートの分析

A. 岸和田サテライトでの生涯学習者の推移

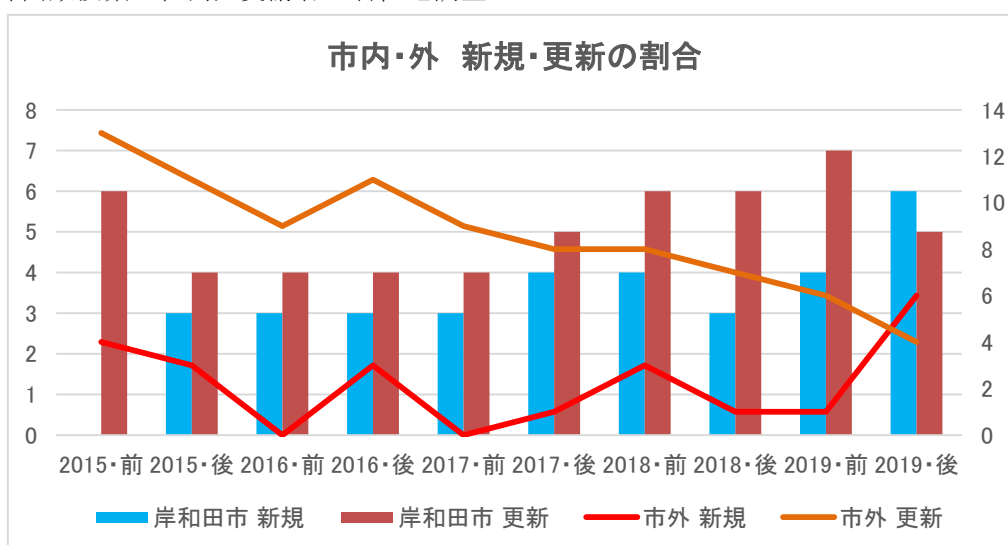
(単位：人 (延べ人数))

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 大学院 | 履修生 | 22 | 31 | 22 | 16 | 9 |
| | 正規生 | 58 | 31 | 61 | 44 | 20 |
| | 計 | 80 | 62 | 83 | 60 | 29 |
| 学部開放 | 聴講生 | 52 | 44 | 61 | 52 | 58 |
| | 正規生 | 32 | 18 | 33 | 45 | 48 |
| | 計 | 84 | 62 | 94 | 97 | 106 |
| 合計 | | 164 | 124 | 177 | 157 | 135 |



大学院研究科では、1科目が未開講となった。
学部開放授業では、正規生の受講が多く、研修室の定員数を満たした。

B. 学部開放授業の社会人受講者の居住地調査

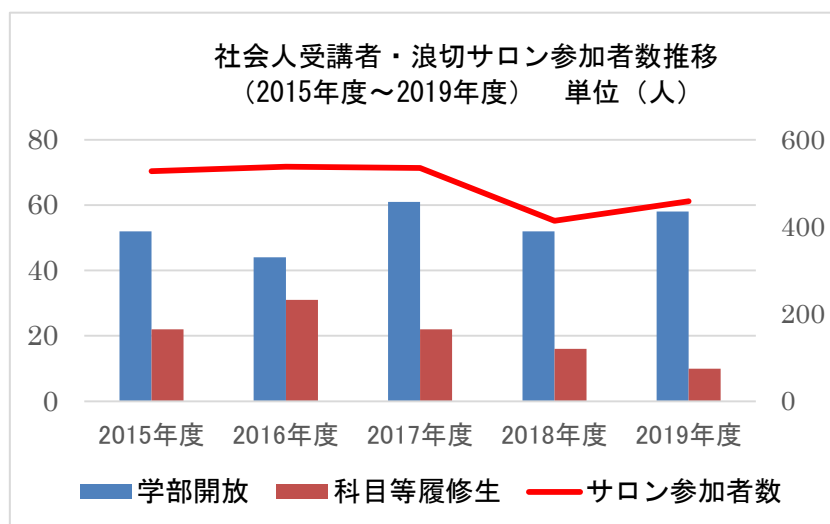


2019年度後期は、市内外共に新規受講者が多かった。

C. 岸和田サテライト受講者数及び浪切サロン参加者数との相関】

(単位：人 (延べ人数))

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 学部開放 | 52 | 44 | 61 | 52 | 58 |
| 科目等履修生 | 22 | 31 | 22 | 16 | 10 |
| サロン参加者数 | 528 | 538 | 535 | 414 | 459 |



2019年度3月浪切サロンは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度へ延期とした。

③サテライトオフィスへの各種問い合わせ

2019年4月～2020年3月、電話、電子メール、訪問などにより約160件の問合せ・相談寄せられました。

特に、一般入試への問い合わせが最も多く対応しました。

| | |
|--------------|------|
| 入試問合せ | 95件 |
| 講師派遣依頼 | 8件 |
| 外部からの各種相談 | 18件 |
| 外部との連携件数 | 22件 |
| その他 | 15件 |
| (3月18日現在) 合計 | 158件 |

- ・岸和田サテライトの認知度と学部開放授業受講者数との相関関係はこのデータからで推察はできなかったが、学部開放授業への受講の動機付けや、岸和田サテライトからの働きかけにより受講が促進されているようだ。(学部開放授業受講者アンケートより)
- ・社会人の学部開放授業の受講者及び、浪切サロン参加者共に、近年は大きな変動なく推移している。生涯学習者層の岸和田サテライトへの安定したニーズがあることがわかる。引き続き、地域のニーズ調査を実施し新たな生涯学習のテーマを把握し、広域に戦略的広報を展開することで、広く地域に生涯学習の機会や大学の学術資源を提供できる。
- ・浪切サロンは、天候や時期、テーマやタイトルにより参加者数が左右されることが多い。タイムリーなテーマや時期などを検討し企画を行うことで、浪切サロンの充実を図り市民に生涯学習活動の契機となることができる。
- ・入試や外部からの依頼や相談が寄せられ、岸和田サテライトのオフィス機能の重要性がわかる。

【5-4】効果的な広報活動

【5-4-1】多様なチャンネルによる戦略的広報の実施

学部開放授業受講者、経済学研究科科目等履修生の受講者数増を図るため、また岸和田サテライトの活動の周知のため、広報活動の強化を行いました。



①懸垂幕の新規作成と設置

浪切ホールに懸垂幕を設置したことで、学部開放授業、大学院研究科科目等履修生の新規申請者増を図りました。

懸垂幕を見て初めて知ったと受講申請がありました。

②受講案内のサブツールの新規作成

受講申請者用に募集要項のサブツールを作成し生涯学習施設に配架し受講生募集の広報を広域にかけました。

サブツールで初めて知ったと受講申請がありました。



2019年度 後期



2020年度 前期

③わだいな浪切サロンのチラシの活用

外部印刷を行ったこと、わだいな浪切サロンで次回のチラシを配布することなどを徹底したことで、わだいな浪切サロンの参加者は、次回の情報の取得率が10倍強増加しました。

④ラヂオきしわだへの出演

岸和田サテライト代表から、岸和田サテライトの事業や取組の説明を行いました。

⑤テレビ岸和田の取材とオンエア

- ・岸和田市立図書館と協働開催したブックフェスタ秋

「繊維の魅力にせまる part II ～綿花を収穫してみよう～」(10月27日実施)

- ・浪切サロン

「百聞は一投にしかず～パラスポーツボッチャ～」(1月15日実施)

■ウェブサイト、Facebook ページの運営

岸和田サテライトウェブサイト・ブログ・Facebook ページにおいて、各種事業の開催案内や実施後の記録公開など、速やかな情報発信に努めました。

■岸和田サテライトホームページの活用

わだいなぎサロンや開放授業の情報などを、積極的に更新しました。

■メールマガジンの発行

月1回、登録者に配信しました。

メールマガジンの新規登録者を、浪切サロン等で呼びかけました。

■岸和田商工会議所の協力

岸和田商工会議所の会報『きしわだ所報』に本学教員の連載コラムを掲載しました。

○2019年5月号～2019年10月号

「食卓の向こう側」（連載） 戴 容秦思 和歌山大学食農総合研究所・特任講師

○2019年11月号～2020年3月号

和歌山大学経済学部 藤原靖也准教授

10月「測ること・活かすこと」

11月「国語力はきちんと測定できているか？」

12月「大学進学率」は上がったけれど・・・

1月「名ばかりPDCAサイクル」

2月「売れなくとも「もうけ」は増える？」

3月「何のために「測る」のですか？」

■南海・TVKの協力

南海・TVKの協力を得て、南海浪切ホールの広報誌ナミトモに「わだいなぎサロン」や受講者募集の案内など岸和田サテライト事業の案内を随時掲載しました。

■南海浪切ホールホームページとの連携リンク

南海・TVKの協力を得て、南海浪切ホールと岸和田サテライトのホームページに相互リンクを張りました。

■南海鉄道との連携

南海鉄道主催のイベント「シニア安心サポートフェスタ」での講演に和歌山大学講師依頼を受けました。また、このイベントを和歌山大学岸和田サテライトが協力団体として南海鉄道高野線車内中吊広告を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となりました。